

令和2年度 第4回 鶴岡市地域医療を考える市民委員会 (会議概要)

- 日 時 令和3年 3月25日(木) 午後1時30分から3時30分
 - 会 場 鶴岡市役所 別棟2号館 21、22、23号会議室
 - 次 第 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 説明・報告・協議
 - (1) 経過説明
 - 「これまでの市民委員会を振り返って」
 - 事務局 鶴岡市 地域包括ケア推進室
 - (2) 講 話
 - 「鶴岡地区医師会地域医療連携室ほたるの取組について」
 - 鶴岡地区医師会地域医療連携室ほたる 課長 遠藤 貴恵 氏
 - 「からだ館の取組について」
 - からだ館 齊藤 彩 氏
 - (3) 協 議
 - 来年度の市民委員会の内容の検討
 - ① 市民アクションプランの体系とアンケート調査について
 - ② 来年度の市民アクションの進め方について
 - 4 その他
 - 5 閉 会
-
- 出席委員
瀬尾利加子(委員長)、本間志保子(副委員長)、北風寸美、木村博之、佐藤明美、佐藤和広、土田三香子、本間優子、水口英俊
秋山美紀(コーディネーター・オンライン参加)、福原晶子(オブザーバー)、迎田健(オブザーバー)、鈴木千晴(オブザーバー)、三科武(オブザーバー)、鈴木聡(オブザーバー)
 - 市側出席職員
市長 皆川治、健康福祉部長 渡邊健、地域包括ケア推進室長 佐藤清一、地域包括ケア推進室調整専門員 佐藤正、同室調整専門員 帯谷友洋、同室主事 三浦巧、同室保健師 東海林志保、荘内病院事務部長 佐藤光治、同参事(兼)総務課長 今野一夫、同医事課長(兼)地域医療連携室主幹 土田信一、同地域医療連携室室長補佐 富樫 清
 - 公開・非公開の別 公開
 - 傍聴者の人数 3人
 - 審議事項
「来年度の市民委員会の内容の検討」
 - 委員発言要旨
委員長:次第には、「①市民アクションプランの体系とアンケート調査について」、「②来年度の市民アクションの進め方について」と記載があるが、そこを1つにまとめて、わかりやすく

「来年度の市民委員会の活動」とし、協議します。

まず事務局より説明を願います。

事務局：鶴岡市地域医療市民アクションプラン設計図（素案）を説明。

委員長：2年間、皆さんで模索しながらいろいろとご意見いただいたものを、事務局で10年後までのプランを作成いただいた。ここからは委員の皆さんより意見をいただく時間となる。委員1人1人ご意見を伺う。

委員：鶴岡市民は地域医療について不安を抱えていることは常日頃から感じている。認知症サポーターのように、市民委員も地域医療について学び、その学んだことを他の人に伝え、医療について考えてくれる仲間を増やすことが大事と考えている。小さな地域にも入り込んでいって、地域医療を普及していく必要がある。からだ館のチラシも普段私たちに目に入ることがないが、いろいろな情報が掲載されているので、そのような情報も活用しながら、医療について地域の小さな単位で話し合い出来ればよいと思う。

委員長：今の意見は来年度考える仕組みづくりに生かされる内容と思う。

委員：私は当初子どもを持つ親の立場で参加し、まだ自分では若いつもりでいるが、病気することにそんなに縁もなく、まだまだ地域医療について理解不足のところがある。この市民委員会に参加し、たくさん勉強させていただいた。またこれまで私たちが議論したことを今回設計図としてお示しいただくと、参加してよかったと思う。前回の議論でアンケート調査に若い人から回答していただくためには、QRコードを使うとか、紙だけではないものを混ぜていかないといけないと思う。1つ質問ですが、先程講話いただいたNet4Uを検索したが、残念ながら私が普段通院している医療機関はNet4Uには参加していない。現在、参加医療機関は146施設と記載されており、病院・診療所が40%くらい、薬局が40%くらい、歯科医院・福祉施設が20%くらいかと思うが、国から全国の自治体には医療介護連携の推進は指示されており、全国でも有名なNet4Uの取組は素晴らしく、鶴岡が誇れるものと思うが、この参加医療機関を増やすにはどのような課題があるのか。

オブザーバー：これまで20年間Net4Uという取組を行ってきたが、医療側の参加がなかなか増えないということが大きな課題。今、介護職の使用ニーズが上がってきて、先生方と繋がっていきたいと思っているが、参加医療機関が少ないため、なかなか繋がっていかない。運営側で20年間取り組んできた結果が現在なので、ぜひ市民の側からかかりつけ医の先生へ働きかけを行っていただきたい。また若い世代においても、子どもの医療情報を関係者で共有していきたいとの希望を発信していただきたい。

委員長：Net4Uのメリットを知る機会が必要と思い、今後の市民勉強会のテーマの1つとなる。

委員：若い世代は病気をしないので、医療に触れる機会がない。10年後の地域医療のあるべき姿を検討するとすると、若い世代を取り込んでいかないといけない。もともと医療に関心のある世代が10年後、さらに関心が高まり、そのなかに若い世代が入り込んでいくことは敷居が高いと思う。また今後予定している市民勉強会を立ち上げるにあたって、できるだけ若い人に参加していただけるような仕組みづくりが必要である。そのためには、少しゆるい内容にしたほうがよい。また専門的知識を学んだり、広く浅い知識を学ぶなど、レベル分けも必要である。

委員長：確かに10年後を考えると、30代、40代の方の意見を取り入れないといけないと気付かされた。

委員：私は退職するまで忙しく過ごし、医療についてまったく知らなく、興味もなかった。退職してから、地区の保健委員となり、この市民委員会の委員ともなった。退職して、医療機関にかかるようになり、かかりつけ医からNet4Uへの登録を進められ、軽い気持ちで登録したが、今日講話を聞いてこんなに素晴らしいものとは思わなかった。これまでNet4Uに関わってきた鶴岡の医療関係者に敬意を表します。このような鶴岡の素晴らしさを伝えていきたいと思った。勉強会というと堅苦しい部分もあるので、「鶴岡の医療を知る会」というような名称で開催するとよいと思う。若い方は毎日の生活で精一杯なので、少しゆとりのできた60歳過ぎの方を主に取り込んだ方がいいと思う。また、アンケート調査の協力の欄に、地域医療の目指す姿を掲載したほうがいいと思う。

委員長：地域医療に興味のない方をいかに取り組んでいくかもとても重要になると思う。

委員：地域医療市民アクションプランの設計図を示していただいたが、私はよく理解できた。ただ、私はこれまで市民委員会に参加していたから理解できたのであって、市民に提示した時に果たして理解し、取組のことができるのか疑問がある。興味のない方にも理解していただける提示も必要と思う。「信頼」ということがキーワードとなっているのはとても共感が持てたので、それもどこかに示していければいいと思う。市民勉強会の医療者の参加の促進も大切であり、医療者も市民の1人であることの意識付けも必要である。からだ館の広報誌も多くの人から見てもらいたい。がん患者のサロンに行ける人はいいが、行けない人を発見し、支援することが大切と思う。

委員：Net4Uについては、日々業務で使用しており、とても助かっている。Net4Uを通して、医師や看護師から情報をもらえることがメリットである。私が仕事上感じることは、若い世代は親の介護に直面した時に、初めて医療を意識するようになる。そのようなときにケアマネジャーとして世帯に介入するが、若い世代の取り込み方の参考となるかと思う。

委員：私は後期高齢者で、仲間で病気することがあり、病診連携について情報提供することがあるが、その方たちは理解して、病院に入院した時に役に立ったとの声を聞いている。ただ、病院の看護師時代に「かかりつけ医を持ちましょう。」とか、「Net4Uという制度がありま

すよ。」とか、再三情報提供してきたが、なかなか理解してもらえなかった。わかりやすく伝える大切さ、相手に理解してもらえているかどうかを大事と思う。私たちの「鶴岡市地域医療を考える市民委員会」や、「荘内病院の明日を考える会」、「鶴岡の医療を守る市民研究会」など、いろいろなものに参加したが、荘内病院が使命を果たさなければならないと職員がどれくらい思っているか、知りたいと思った。